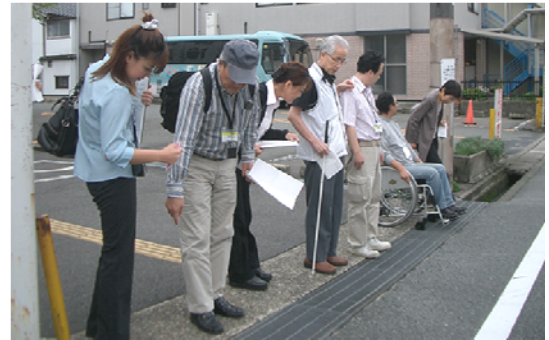


ユニバーサルデザイン研究会の活動経緯と兵庫県での今後の展開 ～検証分析の積み重ねと他団体との連携～

公益社団法人 兵庫県建築士会
女性委員会 山本和代

1. ユニバーサルデザイン研究会の 概要と活動経緯

平成 15 年度に兵庫県建築士会 女性委員会内に、ユニバーサルデザイン (UD) 研究会を設立。きっかけは平成 17 年に神戸で開催される UD 全国大会だった。年間約 10 回の定例会をもち、平成 29 年 7 月現在、定例会は通算 115 回を数える。



年度	活動テーマ	内容
H15～ H17	UD 検証活動	<ul style="list-style-type: none"> 多様な人（高齢者、障がい者、妊婦、乳幼児連れ、こども、日本語がわからない人等）ごとに特徴・特性を調べ、建築空間や公共交通空間にある問題の掘り起こし作業を行った。 実際に各地に出かけ、キーワードをもとに検証。1 施設という「点」だけの検証だけでなく、建物や交通機関とのつながりも含めた「面」としての検証もできた。
H17	UD 全国大会に参加	<ul style="list-style-type: none"> 大会会場予定の神戸国際展示場の「<u>UD 視点に基づく現状調査</u>」を受託。 定例会、見学、検証の結果をまとめ、パネル展示。
H18～ H21	冊子作成とセミナー開催	<ul style="list-style-type: none"> 『<u>UD の視点から探る住み続けることが可能な住宅の基本</u>』冊子作成。 冊子を用いて、セミナー・研修会（建築士、市民対象）を開催。
H19	UD 建築研究会の設立	<ul style="list-style-type: none"> より幅広い実践活動を行うために別途設立し、UD 研究会と連携して活動。
H22～ H24	まち（観光地）の UD 検証	<ul style="list-style-type: none"> 北野異人館街、有馬温泉、六甲山、舞子公園、王子動物園、須磨海浜水族園など。
H28	第 18 回「人間サイズのまちづくり賞」受賞 (UD 部門)	<ul style="list-style-type: none"> 評価された点 > ①研究会メンバーでの定例会や具体的な現地検証により知見の積み重ね、②研修会や冊子等により他の建築士の UD に関するスキルアップ、③一般市民へのセミナーやパネル展示、小学校での UD 授業の実施などによる普及啓発、④県の福祉のまちづくりアドバイザーへの登録など行政の取組への参画、に大きく分けられる。 自分たちだけでなく、地元の建築士や地域へ広く普及活動を行うことで、ユニバーサル社会づくりに貢献してきた。
H28～	新テーマで活動開始	

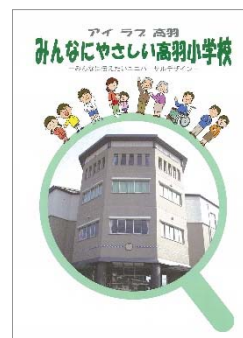
2. 行政や他団体との連携の事例

○市民対象セミナーの実施／神戸市すまいとまの安心支援センター（すまいるネット）

・蓄積したノウハウをもとに、市民向けセミナーを実施。

○市立小学校の UD 授業／神戸市 都市計画総局

・5～6 年生対象に企画から参加。延べ 48 時間の授業を地域の方々とともにサポート。（右図：勉強して気づいた点をとりとまとめた冊子）



○「チェック&アドバイス制度」／兵庫県 県土整備部 まちづくり局

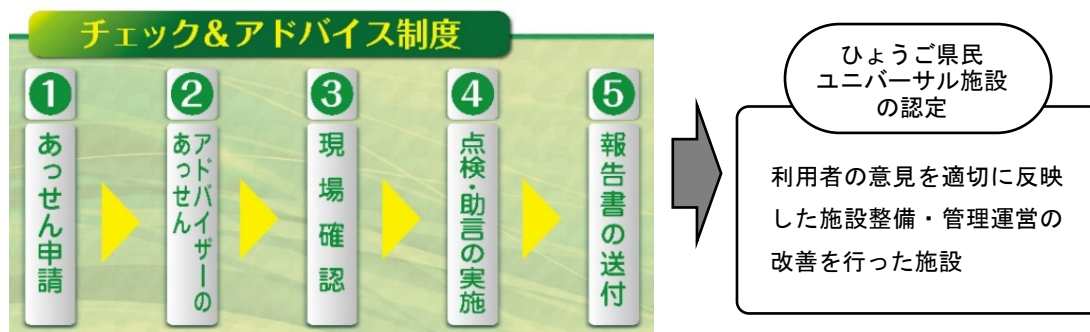
・福祉のまちづくり条例に基づき、特定施設（病院、商業施設、銀行など多数の方が利用する施設）について、県が登録する「福祉のまちづくりアドバイザー」をあっせんし、利用者目線から施設整備と管理運営に関して点検・助言を実施する制度。

・福祉のまちづくりアドバイザーとは

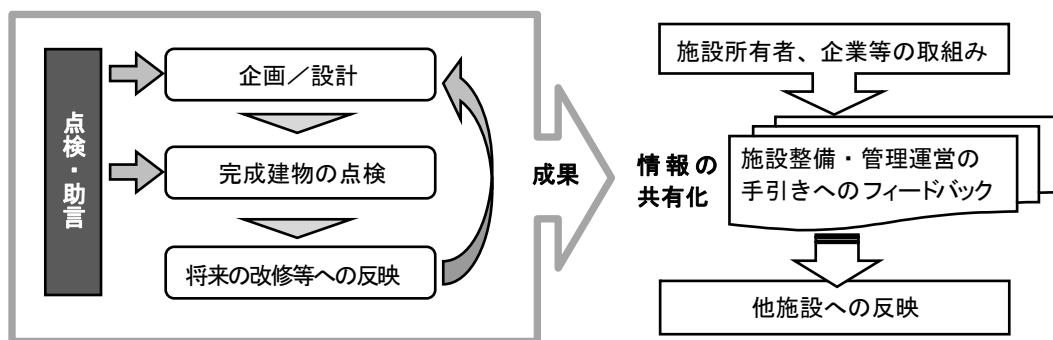
利用者 アドバイザー	施設の点検・助言の経験や、県の主催する福祉のまちづくりアドバイザー養成研修の受講などにより、福祉のまちづくりに見識のある障害者等の利用者
専門家 アドバイザー	建築・福祉の専門資格を持ち、高齢者・障害者等に配慮した施設の設計・監理の実務や施設の点検・助言の経験を持つ専門家（建築士・社会福祉士・理学療法士・作業療法士、保健士）

・登録者／平成 29 年 5 月 25 日現在 132 名、今までの実績／平成 23～28 年度で 70 件

・制度利用の流れ



・施設整備・管理運営のスパイラルアップ：常に検証と改善を繰り返し、スパイラルでよくなっていく



・参考：兵庫県 HP「[チェック&アドバイス制度](https://web.pref.hyogo.lg.jp/ks18/kendo-toshiseisaku/hukumachi/201209_renewal/check_and_advice.html)」

https://web.pref.hyogo.lg.jp/ks18/kendo-toshiseisaku/hukumachi/201209_renewal/check_and_advice.html

3. 最近の取組みと今後の展開

○勉強会・講演会開催

「認知症高齢者に対する建築的配慮についてともに考える」開催／講師：宮野順子氏（県立福祉のまちづくり研究所 研究員）

・キーワード：ノウハウではなくヒント／個別解が求められる／特性を理解し考えていく
／建築士の空間整備の技術が必要



○関連資料、情報の共有

講演会の後、認知症や建築的対応について、より理解を深めるために関連資料の持ち寄り、情報交換や介護を専門に行っている人から「認知症高齢者の実態を聞く」等情報収集している。

○認知症関連についての課題

- ・認知症自体への知識が不足していること
- ・認知症高齢者に配慮された建築事例が少ないこと（高齢者施設ではあるかも）等、現在模索中であるため、みなさんからのご意見・ご経験を伺いたい。